

令和6年度 保育所等訪問支援事業所 自己評価総括表

○事業所名	四日市市立あけぼの学園保育所等訪問支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日	～	令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 25名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日	～	令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年10月1日	～	令和6年11月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 25名	(回答数)	21名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが 期待されること	工夫していることや意識的に 行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な専門的知識を有する訪問支援員が在籍している(心理判定員、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、保育士)。	お子さんと家族のニーズや課題に応じて、様々な職種の訪問支援員が訪問することで、お子さんの特性を踏まえた支援方法について助言を行うようにしている。	専門的な研修を受けることで、より専門性を高めていく。
2	多機能の事業所であり、様々な視点で情報を共有し、より深くお子さんの姿について把握している。	学園の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスの個別支援時のお子さんの姿を把握し、訪問支援を実施している。	他の事業所との情報交換をより密に行い、共に学び合うことで、支援の質の向上を図っていく。
3	地域のインクルージョン推進の中核機能の役割をめざしている。	支援実施施設(保育園や幼稚園、小学校等)の先生方へ、こどもの理解を深め支援について考えていただく研修を実施している。	お子さんの支援に関わる関係機関に、より広く研修等を実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと 思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が 必要な点等
1	一人当たりの利用回数が少なくなってしまう。	訪問の設定日と訪問先施設の予定との兼ね合いで、訪問日を決めることに難しさがある。	訪問支援先の予定を聞きながら、支援日については柔軟な対応ができるよう設定していく。
2	学校等への行き渋りのあるお子さんや不登校児童への訪問支援の内容に難しさがある。	要因が複雑化しており、子どもの特性からのみで支援の方法について提案することに難しさがある。	家庭での姿や訪問先での姿、各関係機関からの情報をより細かくアセスメントし、支援力の向上を図っていく。